

# 第123回 維持管理研究会 議事録

- 開催日時：2021年10月21日(木) 16:00~17:40
- 場所：Zoomリモート開催
- 出席者(敬称略) 12名  
井上、上辻、国貞、澤田、守護、菅谷、高橋、柳本、柳谷、山下、坂本、中谷(記)

## 4. 研究テーマ

今月の研究会は、研究会メンバー各社で実施した訓練・演習内容について可能な範囲内で実例を発表して頂き、メンバー間での情報交換を行いました。

参加者から大変多くの質問があり、今後の自社訓練に大変有効な意見交換が行えた。

### ①Tグループ社 災害対策初動訓練(山下さん)

今回は、南海トラフ大地震発生を想定(高知県沖太平洋 M8.2 が発生)した訓練を実施した。本社は被害なしであるとの想定で実施した。

訓練体制は、名古屋本社と東京本社、及びリモート参加のハイブリット方式で行い、約150名が参加した訓練であった。

※動画を閲覧し参加者に意識付けを行い、重要性を認識させることで有意義な訓練となった。

- ・[「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応」説明動画 - YouTube](https://www.youtube.com/watch?v=AeQEVKV2btA)

<https://www.youtube.com/watch?v=AeQEVKV2btA>

- ・[\[暫定版\] 南海トラフ地震どうなる? どうする? 時間差で起こりうる地震への備え - YouTube](https://www.youtube.com/watch?v=UR-CUwU_oXg)

[https://www.youtube.com/watch?v=UR-CUwU\\_oXg](https://www.youtube.com/watch?v=UR-CUwU_oXg)

(一部説明資料抜粋)

<p><b>想定事象と訓練の目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 今回の初動訓練は南海トラフ地震が発生した状態を想定して実施</li> <li>1. 人命を最優先した行動が取れるか確認する</li> <li>2. 災害対策本部での情報整理・共有と意思決定を検証する</li> <li>3. セコムシステムでの安否確認、関連拠点被害確認の検証</li> <li>4. 新たな働き方における災害時初動対応を検証(ハイブリッド型)             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 出社している災害対策要員は会議室で対応</li> <li>② 在宅勤務の災害対策要員はオンラインで対応</li> </ul> </li> <li>5. 災害対策初動でリアル(一部オンライン)の確認と改善</li> <li>6. 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)発令時の対応を検証</li> </ul>	<p><b>災害対策本部で使用するITツール</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今回の訓練は、ZOOMでの進行となります。現在接続しているIDで訓練終了まで対応します             <ul style="list-style-type: none"> <li>※参加者は、ZOOM上画面表示を(例:名_教護_伏見)とすること</li> <li>※訓練中、発言者以外はマイクをミュートに徹底</li> </ul> </li> <li>2. 各層での対応が必要な場合、あらかじめ準備しているTeams、boxNotesで対応ください</li> <li>3. 災害対策本部での情報共有は、必ずZOOMで画面共有してから</li> </ol>	<p><b>現時点でわかっている状況 ①</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>シナリオ上の時刻</th> <th>10時30分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>付与先</td> <td>事務局・各層</td> </tr> <tr> <td>情報源</td> <td>TV・インターネット</td> </tr> <tr> <td>付与情報</td> <td>                     地震情報                      ・震源地:高知県沖の太平洋                      ・マグニチュード:8.2                      ・各地の震度:                      震度7:和歌山県、徳島県、高知県                      震度6強:兵庫県、香川県、愛媛県、宮崎県                      震度6弱:三重県、大分県、福山県、広島県                      震度5強:奈良県、京都府、山口県、大分県、熊本県、鹿児島県                      ※名古屋本社は震度4                      ・大津波警報:茨城県~沖縄県の太平洋側に発令中                      &lt;参考&gt;                      ・大津波警報:高いところ3mを超える場合                 </td> </tr> </tbody> </table>	シナリオ上の時刻	10時30分	付与先	事務局・各層	情報源	TV・インターネット	付与情報	地震情報 ・震源地:高知県沖の太平洋 ・マグニチュード:8.2 ・各地の震度: 震度7:和歌山県、徳島県、高知県 震度6強:兵庫県、香川県、愛媛県、宮崎県 震度6弱:三重県、大分県、福山県、広島県 震度5強:奈良県、京都府、山口県、大分県、熊本県、鹿児島県 ※名古屋本社は震度4 ・大津波警報:茨城県~沖縄県の太平洋側に発令中 <参考> ・大津波警報:高いところ3mを超える場合
シナリオ上の時刻	10時30分									
付与先	事務局・各層									
情報源	TV・インターネット									
付与情報	地震情報 ・震源地:高知県沖の太平洋 ・マグニチュード:8.2 ・各地の震度: 震度7:和歌山県、徳島県、高知県 震度6強:兵庫県、香川県、愛媛県、宮崎県 震度6弱:三重県、大分県、福山県、広島県 震度5強:奈良県、京都府、山口県、大分県、熊本県、鹿児島県 ※名古屋本社は震度4 ・大津波警報:茨城県~沖縄県の太平洋側に発令中 <参考> ・大津波警報:高いところ3mを超える場合									
<p><b>10:50 状況付与訓練②の前に</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 発生後~2時間程度 南海トラフの想定震源域またはその周辺でM8.0以上の地震が発生した場合、政府が『南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)』を発令</li> <li>■ 2時間程度~1週間 日頃から地震への備えを再確認するなど、国からの呼びかけ等に従って行動</li> <li>■ 1週間~2週間 警戒措置を解除し、さらに1週間地震への注意措置</li> <li>■ 2週間~:地震に注意しながら通常の生活を送る</li> </ul>	<p><b>10:50 状況付与訓練②の前に</b></p> <p>【参考】東海地震警戒宣言からの変更点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 東海地震の発生の恐れがあると判定されると、気象庁長官から内閣総理大臣へ地震予知情報が報告され、内閣総理大臣は直ちに東海地震の警戒宣言を発表</li> <li>■ 東海地震の警戒宣言で制限されることの例             <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道:新幹線を含めて最寄り駅に停車(すべて運休)</li> <li>・学校:児童生徒に対し速やかに下校の措置</li> <li>・病院:外来患者診察休止</li> <li>・百貨店・ショッピングモール:営業を直ちに休止</li> </ul> </li> </ul> <p>いつまで止めるか決まっていない</p> <p>2019年3月の変更点=経済を止めない</p>	<p><b>11:00 状況付与訓練②</b></p> <p>事業継続について意思決定することができましたか?</p> <p>【事業継続対策の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 会社としての意思決定を止めないため、経営幹部は東京本社で勤務</li> <li>■ 名古屋本社で出社を希望する社員は東京本社で勤務</li> <li>■ 東京本社に移動して勤務する役職員の執務スペースと宿泊場所の確保</li> <li>■ 名古屋本社で勤務する外国人社員への対応</li> <li>■ 災害対策本部を今後どうするか(常設・定時集合)?</li> </ul>								

②TD社 本社災害対策本部の立上訓練（守護さん）

大規模地震発生時のTDSC本社災害対策本部の運営方法の確認

南海トラフ地震（東側 半割れ）発生により(姫半)、(姫東)では震度5強の揺れにて被害発生

気象庁は今後1週間以内に南海トラフ地震(西側 半割れ)が発生する確率が非常に高まったと発表。

ポイント①：南海トラフ東側 半割れ地震による被害状況の収集と対応方針

ポイント②：1週間以内に発生するであろう地震への備え（九州地区）

（一部説明資料抜粋）

### 南海トラフ地震（半割れ 東側）

南海トラフ東側で大規模地震(M8.7)が発生

南海トラフ東側で大規模地震(M8.7)が発生

南海トラフ東側で大規模地震(M8.7)が発生

南海トラフ東側で大規模地震(M8.7)が発生

南海トラフ東側で大規模地震(M8.7)が発生

### 南海トラフ地震情報～半割れケース～：内閣府防災担当

地震発生後概ね30分程度で、調査を開始する旨の情報(第1号)を発表

南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まっている等の調査結果が、最長2時間程度で続報として発表

地震発生

地震発生後概ね30分程度で、調査を開始する旨の情報(第1号)を発表

南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まっている等の調査結果が、最長2時間程度で続報として発表

### 「半割れケース」における住民、企業の防災対応：内閣府防災担当

初めの地震に対する緊急対応をとった後、明らかにリスクが高い事項についてはそれを回避する防災対応をとり、社会全体としては地震に備えつつ通常の社会活動をできるだけ維持していくために、住民や企業は以下のような対応を基本とすべきではないか

#### 住民の対応

津波避難施設が整備途上であるなど津波到達までに明らかに避難が完了できない地域の住民は避難

津波到達時間が短く、高い津波が想定される地域や、土砂災害特別警戒区域等の地震に伴う土砂災害の脆弱性が高い地域では、地震発生後の避難では間に合わない可能性がある要配慮者は避難

これらの地域でそれ以外の者は、避難の準備を整え、個人の状況等に応じて自発的に避難

それ以外の地域の住民は、家具の固定や避難先・避難経路の確認を実施するなど地震への警戒レベルを高める

#### 企業の対応

多くの不特定多数の者が利用する施設や、危険物取扱い施設等については、出火防止措置等の施設点検を確実に実施

明らかに従業員等の生命に危険が及ぶ場合には、それを回避する措置を実施

それ以外の企業についても、安否連絡方法の確認等の措置を実施

事業継続にあっても、事前に何らかの措置を実施することで、地震発生時の企業活動への影響を減じることができ、トータルとして被害軽減・早期復旧できる場合は、その措置を推奨

### 今回の訓練で工夫したポイントと成果

工夫したポイント：

- 事前説明会を実施：想定が「南海トラフ地震（東側 半割れ）発生」と、まだ一般には十分に知られていない地震が訓練の起点となる為。
- 事前説明会＝訓練開始：大規模地震発生に伴う想定される部門への影響の検討を、事前説明会へ訓練当日までの宿題とした
- 予め本部長指示を設定：訓練の所要時間2時間45分の中で、“第一回TDSC本社対策本部会議”での審議を尽くすのは時間的に無理があるので
- 本部長指示が一番厳しい内容：一番厳しい指示とすることで課題の顕在化を図る  
訓練の中では各部門で課題の列挙を行った  
指示「1週間以内に発生するであろう地震への備え、西側の拠点も24時間以内に稼働停止する。」

成果：「数年に一度の定期半導体工場の定期点検の稼働停止手順では3日を要する。」というのが当事者の常識であったが、訓練を経て「何故、3日を要するのか？24時間は無理なのか」と疑問を持ち、課題と捉える。  
その対応策はきつと平時の作業手順の見直しにも繋がるTDSC幹部は気付いたこと。

<次回予定>

・1月18日（木）16:00～17:30

以上